

かたのがはら 交野ヶ原物語 vol.12



今年の夏は、1年遅れて東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。オリ・パラどちらも、開会式から閉会式まで聖火が灯され続けます。火を灯し続けるといふことは、例えば、比叡山に伝わる「不滅の法灯」のように、古今東西特別な意味があります。オリ・パラの聖火は、それぞれ異なった由来を持ちます。オリンピックの聖火は、ギリシャのアテネからリレーされてきますが、パラリンピックの聖火は、日本全国880を超える自治体によって起こされた火が聖火台に集約されたものです。枚方市・交野市もこの採火に手を挙げました。それにあたり、枚方市役所から当会にご相談いただき、採火式に協力することになりました。採火式予定日の8月14日が旧暦の七夕であることから、交野ヶ原に伝わる七夕の伝承を会場レイアウトコンセプトにし、天野川の水で太陽の光を集めて起こした火で採火することを提案させていただきました。会場装飾は2019年の当会主催イベント「井天空の地上絵@交野ヶ原」で使用した天の川のライトアップを設営しました。天野川での火起こし後は、枚方市役所と当会でリスクを分散し、それぞれ10日間火を維持し、当日を迎えました。この火を灯し続けることで、改めて、文化や伝統を継承していくことは更なる精力が必要なのだと感じました。

採火式は、西日本を中心に発生した大雨により、翌日の15日に順延となり、当初会場とされていた百済寺跡から、取り壊しの決まっている枚方市民会館大ホールロビーに変更されました。半世紀近くに亘り、枚方市民の文化や芸術を彩ってきた大ホールも採火式の2週間後には、新たなホールへその役割を引き継ぎました。

このパラリンピックの採火式も、後々、枚方市にとって、大事な何かが継承されたイベントと言われる日が来るのかもしれない。改めて、採火式に携われたことを心から光栄に思います。

嶋田 研志郎

発行日：令和3年(2021年)12月12日 発行元：天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクト

交野ヶ原 4コマまんが劇場

交野ヶ原にまつわる4コマまんがを交野市で活動されているきくつぺさんが描いてくださることになりました!!4コマまんがを通じて交野ヶ原のことをもっと好きになろう!!

★作者プロフィール★

きくつぺです!!
グラフィックデザイナーとしてマス・枚方で育ち、交野市在住です。
枚方歴20年以上交野歴20年以上。
まさに交野ヶ原ビートル!!

枚方 + 交野 = 交野ヶ原
大好き + 大好き = 大好き
好きなことは空の写真を撮ること
交野の歴史をおぼえておくこと
おいしいものを食べること
こいもろとエピソード

交野タイムズのお節でもアリ

交野ヶ原の今と昔をおもふの巻

行ってみようモオ〜

2022年1月3日
10:00 ~ 11:00

交野ヶ原イベント情報

枚方ビオルネ VIE. ORNER

お正月公演!
交野ヶ原交野節

枚方ビオルネの初売りに合わせ、10時から枚方ビオルネ前にて交野ヶ原交野節公演が開催! 新年を言祝ぐおめでたい歌詞に合わせて獅子舞も登場予定! 交野ヶ原の郷土芸能・交野節を聴きに、ぜひお越しください!

2022年2月末閉局
ありがとう
FMひらかた

1995年に起こった阪神淡路大震災をきっかけに、災害時の市民への情報伝達のために1997年に開局されたエフエムひらかたが、残念ながら2022年2月末に終了します。

当プロジェクトでも、2016年の菊花酒イベントでのコラボを皮切りに、「天の川で愛を叫ぶ」へのご協力、番組内でのイベント宣伝で出演させていただいたり等、大変お世話になりました。うございました。

『交野ヶ原物語』バックナンバー入手方法

おかげさまで今号をもって『交野ヶ原物語』も発行から足掛け5年、12号目を迎えます。ありがたいことに、バックナンバーがほしいというお問合せも増えてきました。

バックナンバーをご入用の際は、ホームページ上のPDFファイルを印刷していただくか、冊子を希望される場合は、1冊につき100円の協力をお願いいたします。お気軽に下記事務局までお問い合わせください。



~天空の地上絵を日本遺産へ!~
天の川・交野ヶ原プロジェクト
みなさまの「交野ヶ原」にまつわる記事・写真等お待ちしております!!
★問い合わせ★080-5339-3106(事務局)
katanogaharapj@gmail.com

『交野ヶ原物語』とは
私たちが天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクトは、この交野ヶ原を、文化庁が認定する日本遺産へ申請・登録を目指す活動を行っています。日本遺産の申請・登録への道のりは長く険しいものです。念願叶い、日本遺産へ登録されたとしても、交野ヶ原に縁のある方々にとって「他人ごと」であっては日本遺産の看板も意味がなくなってしまうのです。私たちは、交野ヶ原をより生活の中で身近に感じてもらいたいと考え、『交野ヶ原物語』を刊行しました。交野ヶ原という場所にまつわる過去・今・未来の時間軸、そして現代に生きる私たちの生活という横軸をつなぐ、老若男女が時を超えても手に取りたくなる『交野ヶ原物語』を皆様と共に創り上げてまいります。

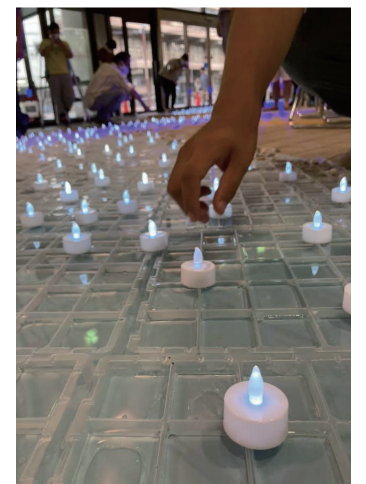
苦勞の果ての感動！パラリンピック採火式

8月15日に枚方市でパラリンピックの採火式が行われました。枚方市役所から天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクトに、コロナ禍の中で色々変更があり、パラリンピック採火式のことを提案してほしいとお話がありました。そこで、8月14日は旧暦の七夕であることと、LEDライトで天の川を作ること、天野川の水を使って採火式のための火を起したいこと



百済寺跡で行ったリハーサル時のLED天の川

を提案しました。採火式は当初、旧暦の七夕の8月14日に、枚方市にある百済寺跡公園で行われる予定でした。しかし、連日の雨で14日は中止になり、翌日の15日に延期され、場所も枚方市民会館のロビーに変更になりました。日本遺産プロジェクト青年部の私達は、天野川の水から火を起す役割を担当しました。ペットボトルに入れた天野川の水に太陽の光を通して焦点を合わせ、黒く塗ったマッチとコットンに着火させ、天野川に生えている葦を燃やしそこから火をランタンに取りました。本番の1週間前は連日雨やくもりで、太陽の出る日がない天気予報だったので2週間前から35度近くの炎天下の中、仲間たちと何日もかかって実験しました。着火の動画の撮影日に、枚方市役所の職員の方々がいらつしやり、緊張の中で無事に火を起すことができ、職員



の方が持つてこられたランタンに火が灯ったのを見てとても安心しました。

採火式当日まで1週間近くの間、市役所の方がランタンと白金カイロを使って火を維持されました。採火式当日は、日本遺産プロジェクトで設置した500個以上のLEDライトで天の川を模した幻想的な光がとてきれいで自分たちが起こした火がトーチに移され、最終、枚方市長によってランタンに灯された時はとても感動しました。毎日暑い中、仲間



自分たちが起こした火がトーチに移され、最終、枚方市長によってランタンに灯された時はとても感動しました。毎日暑い中、仲間

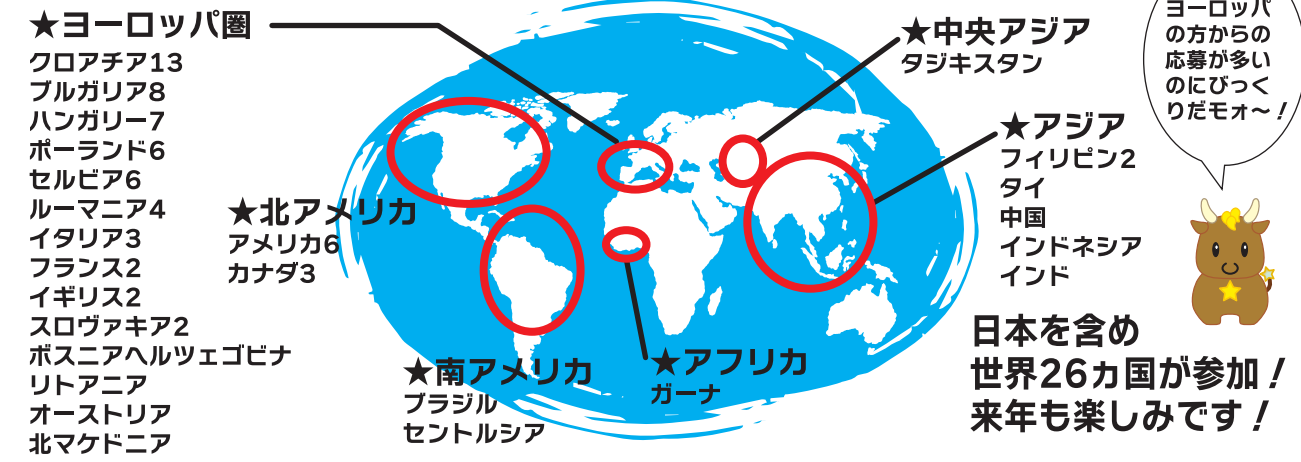


でも悩み、色々工夫をしてもうまくいかず、最後の最後に火がついた時には仲間と大喜びしました。本番はこの時の苦勞が実り、火がついたことがとても嬉しかったです。テレビでパラリンピックの聖火を見た時、とても感動しました。お手伝いしてくれた中で、一番年下の中学一年生のしゅんくんが寄せてくれた感想です。「最初はなかなか火がつかず、もう無理なんじゃないかと思っていましたが、諦めずに試行錯誤を重ねて火がついた時はとても嬉しかったです。採火式当日は自分達が頑張った火を見て感動しました」

部活などの合間を縫い、体調不良になりながらも諦めずに手伝ってくれました。私たちが青年部メンバーも、東京パラリンピックの聖火に携わるような、一生に一度あるかないかの貴重な経験をさせていただき、とても感謝しています。

第2回星の俳句コンテスト 後日のできごとまとめ

交野ヶ原から世界に広がる「星の俳句コンテスト」！！ 海外から応募があった国名と応募数はコチラ！



「星の俳句コンテスト」レポが俳句雑誌『吟遊』92号に掲載！

「星の俳句コンテスト」選者の夏石番矢先生が発行されている世界的な俳句雑誌『吟遊』92号に、当会事務局長嶋田研志郎による「第2回星の俳句コンテスト」レポート文が掲載されました。来年度の夏石先生の大学講義テキストとして使用されます。



「交野ヶ原物語賞」受賞者のドラガン・J・リスティッチさんから贈り物をいただきました！

セルビア在住でドイツの大学教授もされていたドラガン・J・リスティッチさんが、俳句に関するご自身の著書や雑誌をたくさん送ってくださいました。俳句と日本文化への飽くなき情熱に感動！！



ロシア語・ドイツ語・フランス語・英語と様々な言語で著されています

歴史講座・百済寺跡イベントレポ

11月23日に枚方市主催で行われた、百済寺跡と禁野本町遺跡についての市民講座に参加しました。約1時間半の講座の中で、ここでしか聞けない百済寺跡の秘話や最新技術を体験してきました。その中でも特に印象に残ったお話を紹介します。

ビックリ！百済寺はビッグな街だった！?
百済寺があった中宮は当時ほとんども栄えており、百済寺を起点に、碁盤状に街が整備されていました。この形式は平城京や平安京のような国の都が置かれる場所に多く用いられた整備方法で、この辺りからは正倉院にある壺と同等の物も出土しているそうです。百済寺跡にも平城京のような街並みが広がっていたのだ…!!

豆知識！柱がずれている!?
百済寺跡の西塔側の回廊の礎石のレプリカをよく見ると、一つだけ柱の位置がずれています。これは昔、巨大な楠の木の根が柱をずらし、このようになってしまったとか。木の力は恐るべし！ぜひ見に行ってみてください。



なぜが深まる西塔
西塔には1250年前のままの礎石が残っています。西塔の真ん中には心礎と呼ばれる中心の柱があります。心礎をよく見ると謎の三角形が刻まれており、これは昭和7年の発掘調査時の写真にも残っています。この西塔の礎石は百済寺が廃寺となってもあつたもので、一体いつ、誰が、何のために書いたのかは不明だそうです。真相はいかに…。

百済寺跡の魅力を実感！
他にもARやアクリル看板を通じて当時の風景を体験するプログラムもあり、若手メンバーも大喜びでした。百済寺跡の次は、常翔啓光学園内へ移動し、学校内の教室等に再現・展示された禁野本町遺跡についての説明も受けました。今回の講座を通じて、百済寺跡の魅力を実感しました。皆さんもぜひ魅力あふれる百済寺跡へお越しください。



三角形のマーク

〔寄稿〕交野ヶ原交野節・おどり保存会

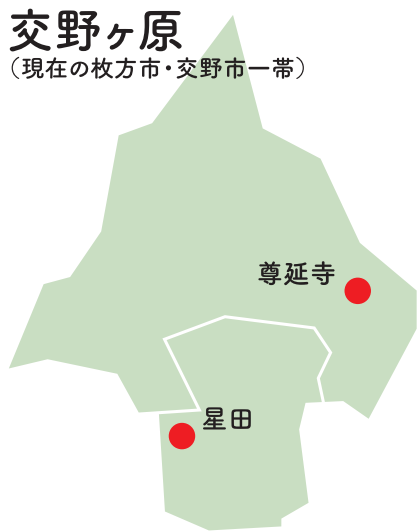
交野ヶ原の郷土芸能「交野節」もご存知でしょうか？



保存会HP

「交野」という地域

私たちの住む、枚方市・交野市一帯は、古くは「交野」と呼ばれていました。さかのぼること飛鳥時代、大宝2年(702年)頃から「交野郡(かたのぐん)」として設置され、明治29年(1896年)に「北河内郡」になるまで、実に約千二百年もの間、この地域は「交野」という名前と呼ばれていました。そして、淀川左岸から広がる台地および枚方丘陵部分を合わせた一帯が慣例的に「交野原」「交野ヶ原」と呼ばれ、桜の名所として平安貴族の歌にも多く詠まれています。交野節は、そんな地域で生まれた盆踊り唄で、江戸時代後期頃から明治・大正・昭和



交野ヶ原 (現在の枚方市・交野市一帯)

の中頃まで当地で盛んに唄われていたとされています。

盆踊りが民衆文化として根付く江戸時代、盆踊りは年に一度の楽しみでした。寛政元年には、交野郡三十八箇村に向けて、盆踊りを過度にやりすぎないようにという触書が出るほど、盆踊りが盛んにおこなわれていた土地柄のようです。それは時代が下つても変わらず、戦前に書かれた『旧枚方市史』にも、「本市附近は交野節の本場で旧村々の若衆は随分之を稽古した」と書かれるほどでした。

現代の河内音頭のルーツ

この交野節は、交野ヶ原から寝屋川、門真、四条畷、守口と北河内一帯に広まっていき、現在の大阪市平野区あたりまで盛んに唄われていたそうです。大正初期頃にアレンジされ、交野節↓歌亀節↓初音節↓鉄砲節といった変遷を経て、現代の河内音頭につながっていききました。そのため、交野節は、「現代の河内音頭」のルーツとも言われています。

交野節の唄い方について

交野節の特徴としては、「七七・七五・七五」という三節(ふし)が繰り返されていき、冒頭と終わりに音頭取りと踊り子の掛け声が入ります。一の節の終わりに、音頭取りが「ヨホホイホイ」と唄い、それを合図にしてその後には踊り子が「アーヤレコラセードッコイセ」と掛け声を入れます。この「ヨホホイホイ」は、現代の河内音頭にも残っています。

「交野ヶ原交野節」について

現在、「交野節」として伝わっている唄は、現存する中で最も古い形をとどめている枚方市尊延寺の節と、交野市星田の節の2種類のみです。星田の節に関しては、当会のみが音頭も踊りも保存しています。交野節は、穂



谷に住む重村佳信(美谷川菊若)さんが唄い継いで来られました。2017年に亡くなられました。その後、重村さんと10年来親交があった、枚方の盆踊りチーム「スターダスト河内」が交野節を次世代につなげるために同年に「交野ヶ原交野節・おどり保存会」を結成しました。

当会では、交野ヶ原地域に残る交野節を「交野ヶ原交野節」と名付けました。この郷土芸能を保存、継承、発展させていくために様々な活動をしています。

現在、「交野ヶ原交野節」を「無形民俗文化財」に指定してもらったために、大阪府文化財課と連携し、地域に残る交野節の調査等も行っています。今年、関西広域連合の大阪府の文化の代表に選ばれました。

この交野ヶ原に住んだ先人たちの息遣いを今に伝える交野節の唄と踊りを、ぜひ皆様もご覧ください！

中秋の名月がっなく時空を超えた歴史ロマン リモート観月の宴@交野ヶ原レポ

大阪、宮城、奈良 から三元中継！

2021年9月21日 『Remote観月の宴2021@交野ヶ原』を行いました。昨年ご好評をいただき、今年も第2回を開催することが出来ました。

昨年同様、特別史跡である百済寺跡をメイン会場として、宮城県涌谷町の城山公園と、新会場である奈良県奈良市の東大寺の3会場から中継しました。百済寺跡と東大寺は当会青年部のメンバーが司会進行をしました。

百済寺跡会場

準備中からあいにくの曇り空でしたが、夕方近くになり虹が出現し、幸先が良いと現地メンバーで喜んでいました。しかし、中継開始10分後に雨が降り始め、スタッフ総力で機材や月見のお供え等にビニールをかぶせたり対応しました。司会も

急遽テントに避難し、そこから中継することになりました。

台本通りにいかない状況で、現場スタッフみんなが知恵を絞り、力を合わせて配信を続けました。

涌谷町会場

宮城県涌谷町からは、昨年同様に涌谷町企画財政課の金野さんのご協力のもと配信をしていただきました。今年には涌谷城をバックに見事な月が出現し、百済寺跡の中継スタッフも歓声を上げてその光景に見入りました。日本列島の長さを実感しました！

東大寺会場

東大寺では、準備中から雨が降っており生中継時にはどうなることかとハラハラしていました。中継場所には、若草山と大仏殿が見える戒壇院戒壇堂の前を



お月見団子を作ってた動画！



雨のため急遽テントに避難...



宮城県涌谷町と生中継！(涌谷町企画財政課 金野さん)

涌谷民謡「秋の山唄」



枚方市国特別史跡百済寺跡より生中継！



涌谷町との三元中継画面



奈良県東大寺と生中継！

東大寺から国宝・盧舎那仏像生中継



アーカイブはコチラ！

奈良県東大寺

大阪府百済寺跡

東大寺には、地元の方もお月見をしに来ておられ、今回の企画を紹介するとその場で「Congratulations」を聞いてご祝儀が来ました。中継が始まると雨が止みましたが、残念ながらお月様が現れることはありませんでした。前日のリハでは素晴らしい月を見ることができていたので、来年はそのような月を皆様にお見せできればと思います。

ご協力ご協賛

今回は、百済王神社様、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会様に協力頂きました。月見酒には、去年に引き続き大門酒造様から日本酒「交野ヶ原」を、月見団子を盛る器やススキを飾る花

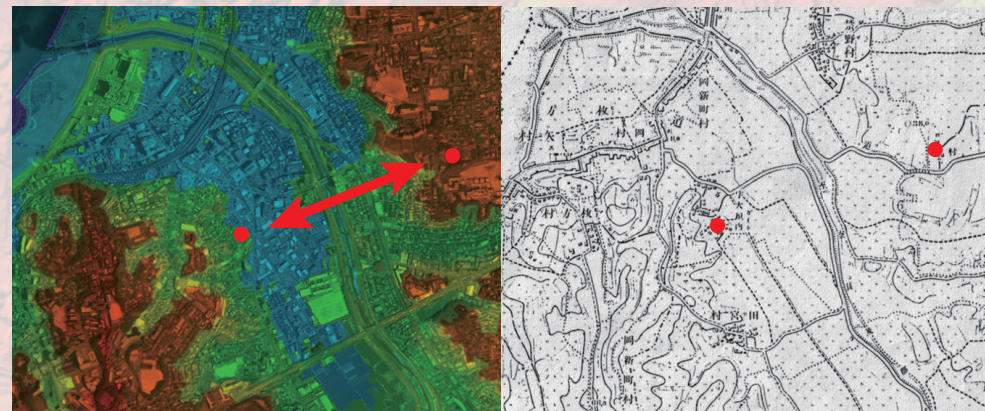


今年の中秋の名月は8年ぶりに満月の日と重なっており、今後2年は同じだそう。それを逃すと次は2030年までないそうです。中継・配信スキルも磨いて、来年こそは美しい月をみなさまに中継できますように！

高低差図・寺社仏閣の配置 (赤丸●で表示)

高低差図を見ると、ほぼすべての寺や神社、古墳(赤い点部分)が、淀川・天野川の氾濫が起こりうる低地を避けて建てられていることがわかります。古代から村落の人々が集う場所だった寺社仏閣は、経験則として水害の影響を受けない高さに配置されているのだと考えられます。

①「二つの百済王神社」の位置関係



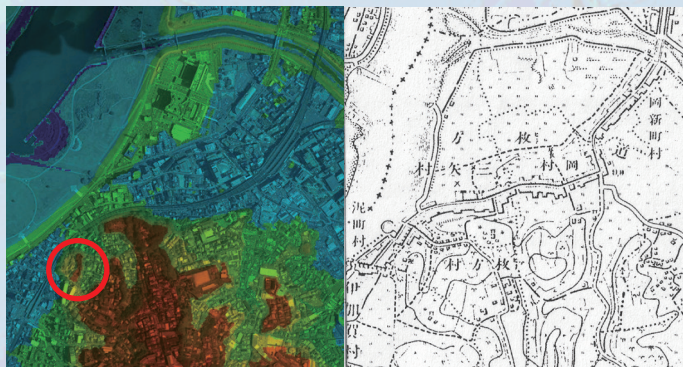
中宮と大垣内を結ぶ禁野橋は、現在は約50mほどの長さですが、江戸時代中頃の寛延2年(1749年)の記録によると、天野川の川幅は平均して70間(約126m)もあったそうです。現在とは全く違った風景が広がっていたのかもしれないね。

中宮にある百済王神社・百済寺跡ですが、天野川を挟んで対岸の大垣内町にももう一つの「百済王神社」が存在します。百済王氏一族の子孫が豊臣秀吉の時代に中宮から大垣内に居を移し祭祀を続けていましたが、度重なる天野川の洪水で江戸時代中頃には中断されたと伝えられます。

地形的にみると、神社から見てちょうど対岸にある高台に位置しており、今でこそビルやマンションに遮られていますが、当時は中宮の本殿を望むことが出来たとみられます。

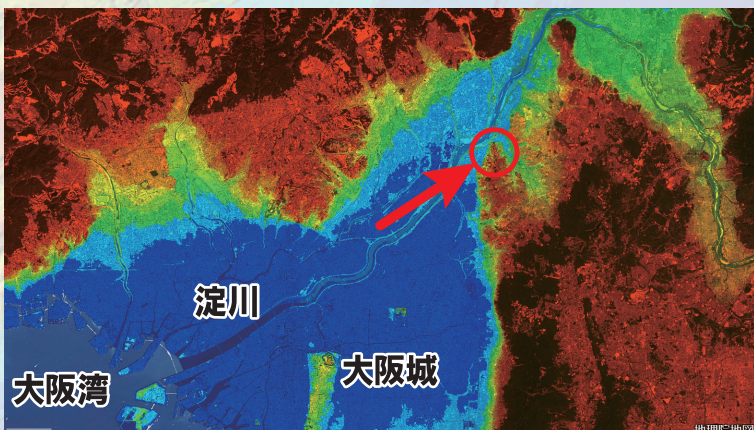
② 臺鏡寺の隠し部屋

淀川を見渡せる枚方丘陵の西側、枚方の宿場町近くの高台に臺鏡寺があります。普段は恋愛成就の寺として宿場町の女性に信仰されていましたが、淀川が氾濫した際の避難所でもあったようで、1734年(享保19年)に建てられた本堂からは淀川の水位監視に使われていたと思われる約2畳の隠し部屋が見つかっています。



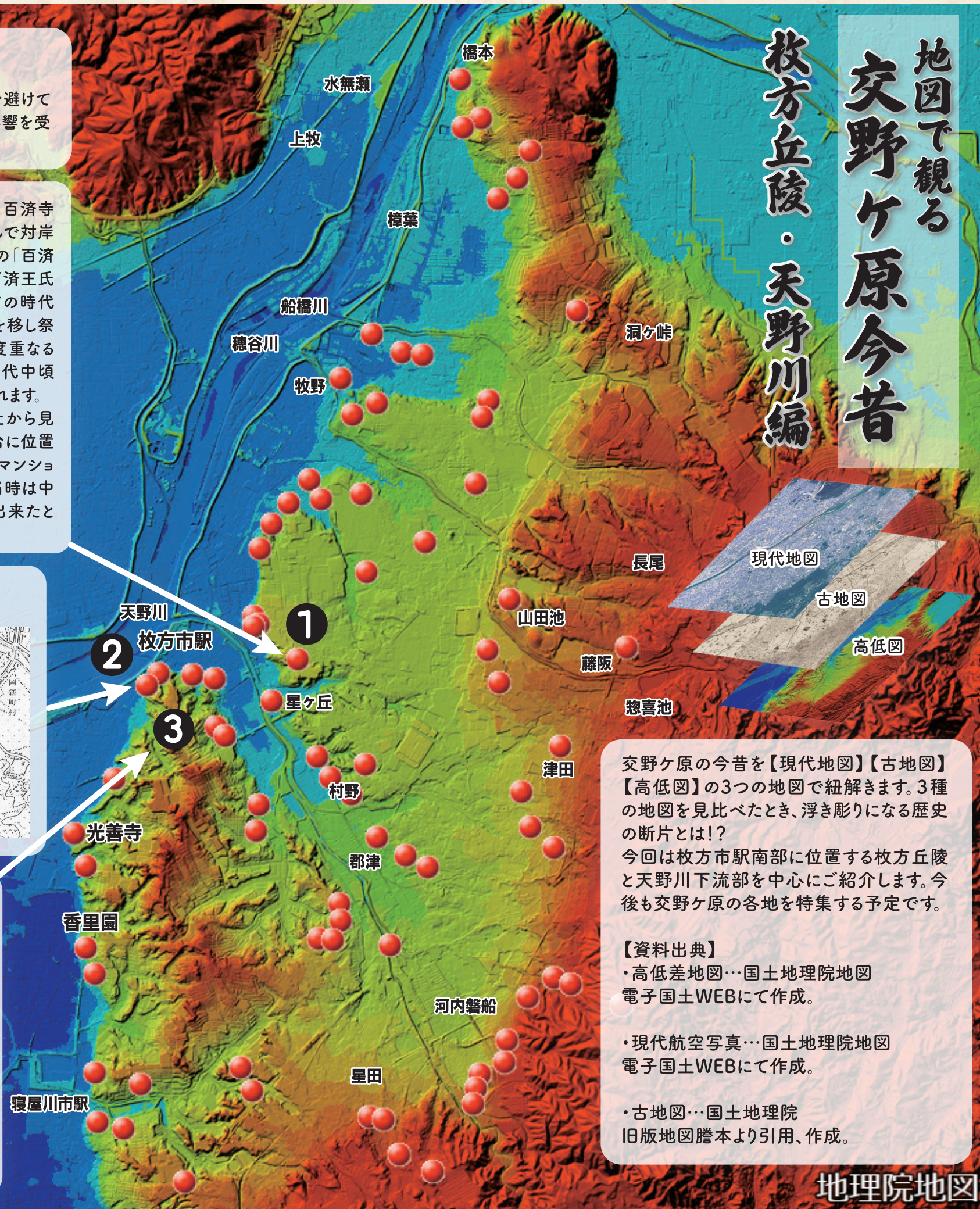
5m未満	5m未満
5m以上 10m未満	10m以上 15m未満
10m以上 15m未満	15m以上 20m未満
15m以上 20m未満	20m以上 25m未満
20m以上 25m未満	25m以上 30m未満
25m以上 30m未満	30m以上 35m未満
30m以上 35m未満	35m以上 40m未満
35m以上 40m未満	40m以上 45m未満
40m以上 45m未満	45m以上 50m未満
45m以上 50m未満	50m以上 55m未満
50m以上 55m未満	55m以上 60m未満
55m以上 60m未満	60m以上

③ 万年寺山の地形的役割



現在、意賀美神社がある枚方丘陵の北端は万年寺山と呼ばれ、古代から地形的要所として時の権力者に重宝されてきました。高低差を見ると枚方丘陵の近くまで標高の低い地形が迫っており、淀川を遡上する舟を監視でき、物流を掌握できる要所であったことがわかります。さらに時を遡れば、ここから南西には河内湾と呼ばれる海が広がっていた時代もありました。枚方が港だったこともあったんですね。

地図で観る 交野ヶ原今昔 枚方丘陵・天野川編



交野ヶ原の今昔を【現代地図】【古地図】【高低図】の3つの地図で紐解きます。3種の地図を見比べたとき、浮き彫りになる歴史の断片とは!?

今回は枚方市駅南部に位置する枚方丘陵と天野川下流部を中心にご紹介します。今後も交野ヶ原の各地を特集する予定です。

【資料出典】

・高低差地図…国土地理院地図
電子国土WEBにて作成。

・現代航空写真…国土地理院地図
電子国土WEBにて作成。

・古地図…国土地理院
旧版地図謄本より引用、作成。